

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校
「指定校における取組事例」

学校名	東広島市立中央中学校	校長	國崎 康裕	担当者名	中西 洋平
-----	------------	----	-------	------	-------

取組事例名 『特別支援推進委員会の組織的な取組』

○	生徒指導に係る連携体制の確立	○	カウンセリング・マインドを もった教職員と児童生徒との対話		主体的な活動を通じた絆づくり
---	----------------	---	----------------------------------	--	----------------

取組における育てたい資質・能力

○生きる力，コミュニケーション能力，レジリエンス

取組のねらい

○生徒が，安心して安全に学校生活を送ることができるように組織的な生徒指導を行う

取組の具体的内容	取組の創意工夫
----------	---------

(1) 特別支援推進委員会の開催

- ①週1回，時間割に位置付けて開催
- ②各学年の長欠，不登校及び不登校傾向の生徒や，学習・生活支援が必要な生徒の情報共有や対応の検討
- ③各学年ごとの情報共有シートの利用
- ④S Cや心のサポーターの参加と助言

(2) 学習支援員の割り当て

- ①学習支援が必要な生徒をピックアップ
- ②週ごとの時間割に学習支援員の割り当て
- ③必要に応じて，対象の生徒と学習支援員の顔合わせ

(3) S S R（不登校支援教室）の運営



- ①学年，学級とS S R担当者との連携
- ②利用生徒の情報共有
- ③学習計画表の利用
- ④自習課題の準備
- ⑤学習計画表を通して，常に担任や学年と連携

(4) 校内研修

- ①保護者対応や生徒対応について，講師を招いて実施

(5) hyperQUの実施・分析

- ①年間2回実施し，比較・分析
- ②分析シートを活用し，学年や教科担当で情報共有

(6) 小中連携

- ①生徒指導主事が小学校に出向く
- ②主に小学校6年生や中学校1年生についての連携
- ③連携内容の情報共有

取組の成果と課題

- 生徒の情報共有ができており，学年全体で組織的な対応ができています。
- 長欠，不登校の生徒がS S Rを利用することで，登校の機会が増え，校内で話をするようになった。家庭訪問しなくても校内で対応できるので，業務改善にも繋がっている。
- 教員間で意識に差があり，細かな部分まで連携・相談等をする必要がある。